

ひがた やくわり い
干潟の役割と生きものたち

ふしのがわかこうひがた みなみがた
～榎野川河口干潟（南潟）で

ひがた やくわり い し
干潟の役割と生きものを知ろう！～



はじめに

やまぐちし ふしのがわかこういき やまぐちわん ひろ にしせとうち
山口市の榎野川河口域から山口湾に広がる、西瀬戸内
ちいきゆうすう こうだい ひがた わた どり ちゅうけいち
地域有数の広大な干潟は、渡り鳥の中継地、カブトガニの
せいそくち ぜんこくてき ひじょう きちょう ひがた
生息地として全国的に非常に貴重な干潟です。

ふしのがわかこういきひがた みなみがた ゆた ひがた
このうち、榎野川河口域干潟（南潟）では、豊かな干潟の
さいせい めぎ ちいき ひと きょうりよく さとうみ
再生を目指して、地域の人たちが協力して里海づくりに
とりく
取り組んでいます。

ほんさっし ひがた やくわり みなみがた さとうみさいせい とりくみ ひがた い
本冊子は、干潟の役割や南潟の里海再生の取組、干潟の生
しょうかい ひがたかんさつかいなど つう こどもたち
きものを紹介したものです。干潟観察会等を通じて、子供達
ちいき ひと はばひろ した も ねが
や地域の人たちに幅広く親しみを持ってもらうことを願っ
ています。

目次

1. 森・川・海のつながり	1
1.1 森・川・海の水の流れ	1
1.2 森・川・海と人のつながり	2
2. 干潟って何?	3
2.1 干潟を知ろう	3
2.2 干潟の役割	5
2.3 瀬戸内海の干潟	7
3. 里海づくり	8
3.1 干潟の活動	9
3.2 カブトガニの保護	10
3.3 アマモ場づくり	11
4. 干潟の生きもの観察	12
4.1 生きものを探してみよう!	12
4.2 生きものどんな場所にいるの?	13
4.3 どうやって観察するの?	14
4.4 南潟に住むいろいろな生きもの	15

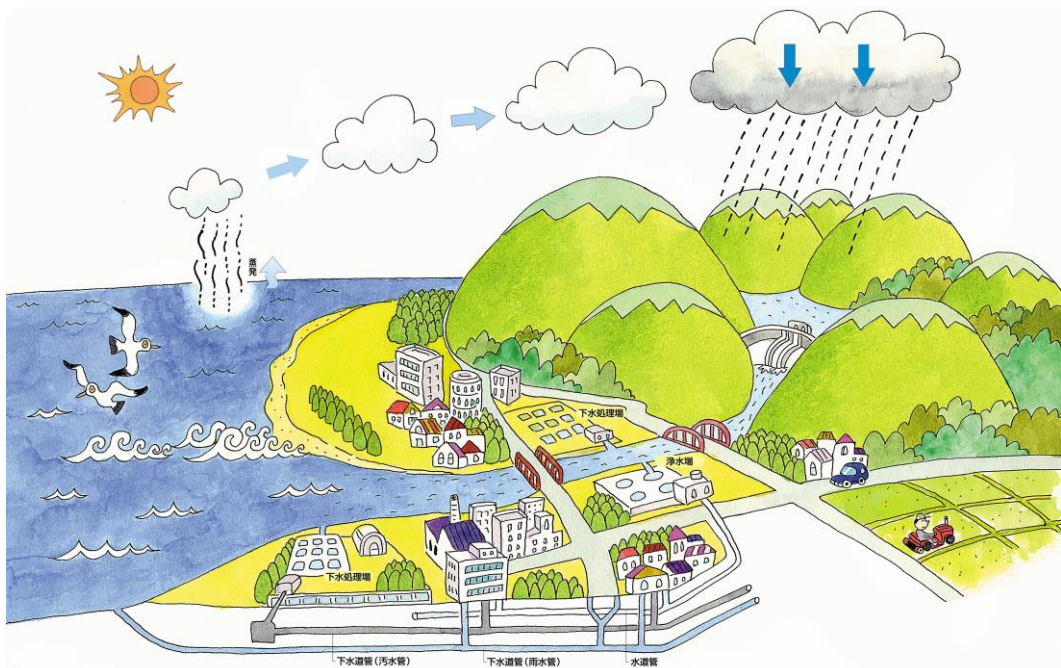
1. 森・川・海のつながり

1.1 森・川・海の水の流れ

海の水は蒸発して雲になり、雨や雪となって山から川へと流れて、再び海に戻ります。

海に流れるまでに、田んぼや工場で使われたり、私たちの飲み水として使われます。

そして、工場で使われた水（産業排水）だけでなく、私たちが洗濯や洗い物をして流した水（生活排水）が川に流れ込み、川や海の環境が変化します。

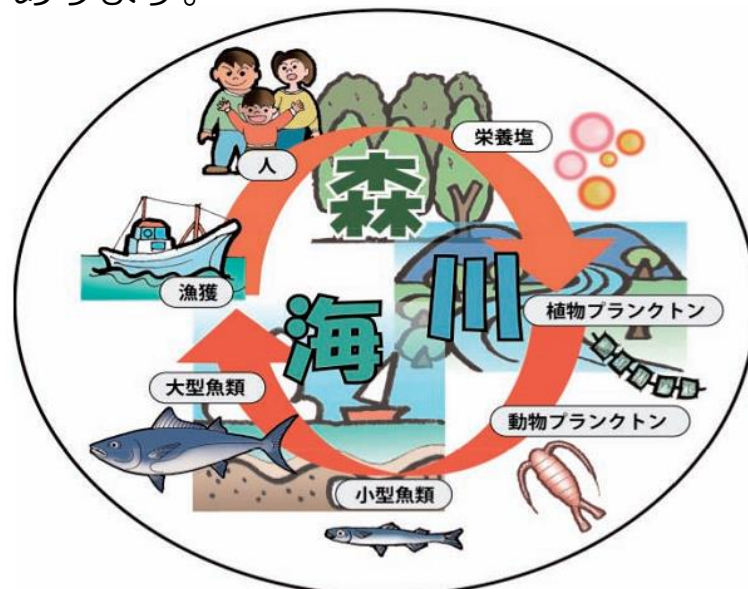


出典：社団法人日本下水道協会 HP

〈森・川・海の水の流れ〉

1.2 森・川・海と人のかかわり

もり かんり もり えいようぶん かわ なが こ かわ
森を管理することで、森の栄養分が川に流れ込みます。川
よご えいようぶん うみ とど うみ えいようぶん
を汚さなければ、栄養分が海に届きます。海ではその栄養分
つか しょくぶつ ふ どうぶつ さかな
を使って植物プランクトンが増え、動物プランクトン→魚
というように、だんだんと大きな生きものに食べられていき
ます。その中で、なかに りょうし と さかな しょくたく あ
漁師さんが獲った魚などは、食卓に上
ることになります。このように、もり かわ うみ ひと
欠けても、その流れがとぎれてしまうので、みんなで守って
か なが まも
いく必要があります。



出典：森・川・海における物質循環と人との関わり

<もり かわ うみ ひと
森・川・海と人のかかわり>

2. ^{ひがた}干潟って何？

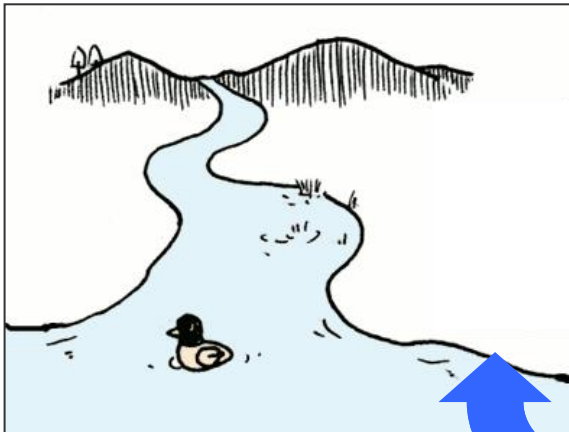
2.1 ^{ひがた} ^し干潟を知ろう

^{ひがた} ^{かわ} ^{かい} ^{じゅうよう} ^{ばしょ} ^{しお} ^み
干潟は、川と海をつなぐ重要な場所で、「潮が満ちている
^{まんちょう} ^{うみ} ^{しお} ^ひ ^{かんちょう} ^ひ ^あ
とき（満潮）は海にかくれ、潮が引く（干潮）と干上がる、
^{すな} ^{どろ} ^{たい} ^{ちけい}
砂や泥でできた平らな地形」です。

◆ ^{まんちょう}満潮

^{うみ} ^み
海が満ちているとき

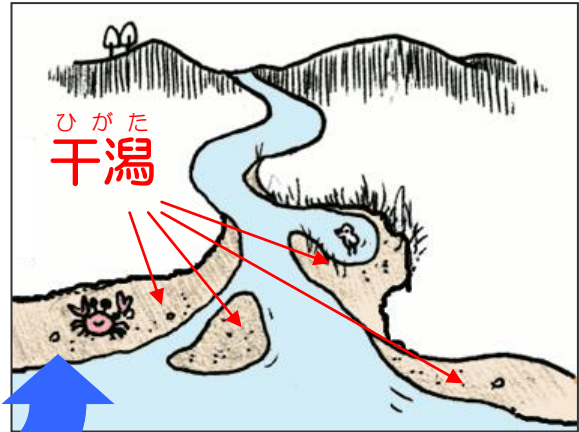
^{ひがた} ^{みず} ^{なか}
(干潟は水の中)



◆ ^{かんちょう}干潮

^{うみ} ^ひ
海が引いているとき

^{ひがた} ^{あらわ}
(干潟が現れます)



^{かいめん} ^{たか} ^{おな} ^{たか}
海面の高さはいつも同じではなく、ゆるやかに高くなったり、
^{ひく}
低くなったりをくりかえします。

^{ちょうせき} ^{しお} ^み ^ひ ^い
(潮汐や、潮の満ち引きと言います)

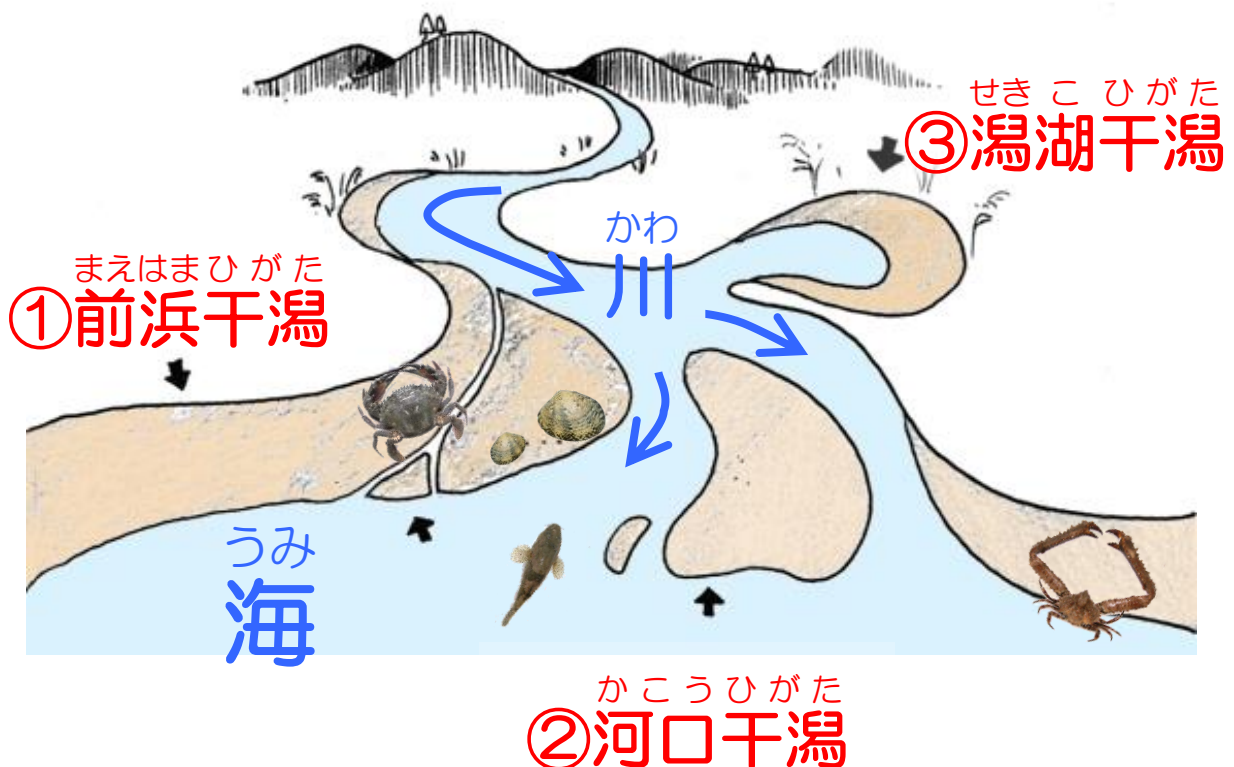
ひがた しゅるい
◇干潟の種類

ひがた ばしよ
『干潟』は、できる場所によって3つにわけられます。

まえはまひがた かいがんせん そ ひがた
①前浜干潟：海岸線に沿ってできる干潟

かこうひがた かせん かこうぶ ひがた
②河口干潟：河川の河口部にできる干潟

せきこひがた かこう うみ みずうみ い こ ぶぶん
③潟湖干潟：河口や海から湖のように入り込んだ部分に
ひがた
できる干潟



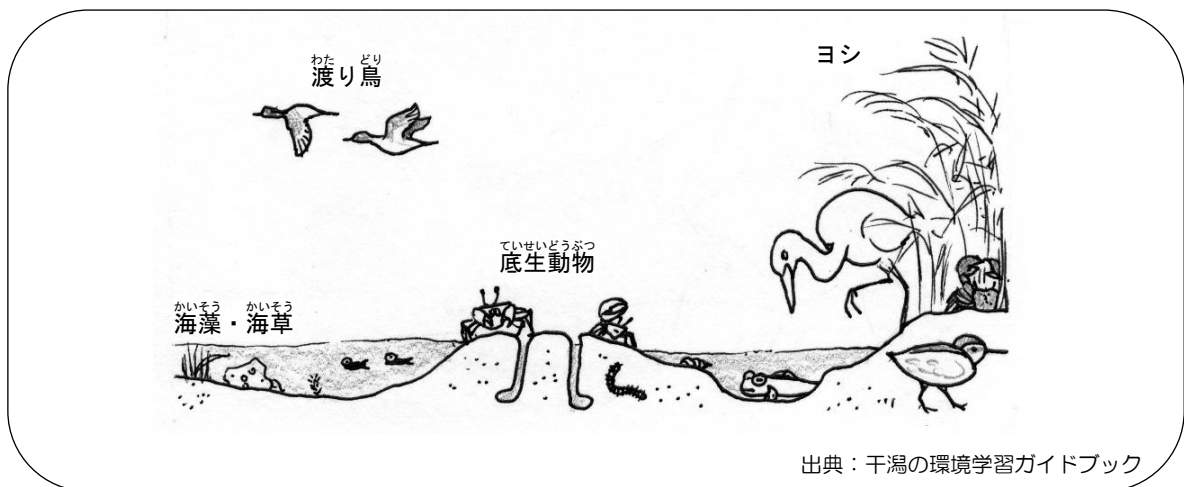
かこう かわ うみ
(河口とは？……川と海がつながっているところです。)

2.2 ひがた やくわり 干潟の役割

ひがた おお やくわり
干潟には大きく4つの役割があります。

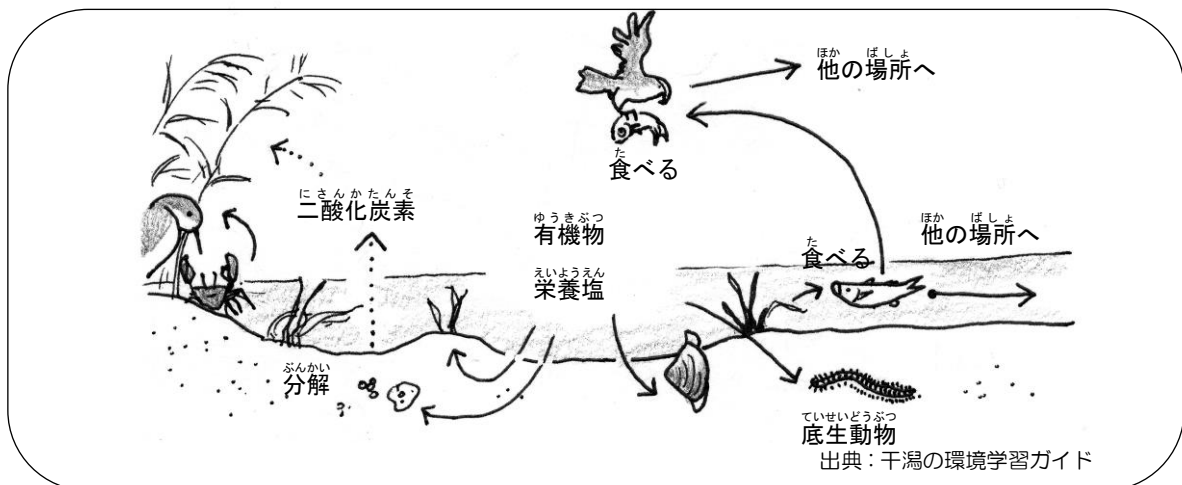
① い せいぶつせいそくきのう 生きもののすみか（生物生息機能）

ひがた ばしょ すな なか いし うえ した い
干潟のどのような場所（砂の中、石の上や下など）に、どんな生
きものがすんでいるかを調べてみましょう！



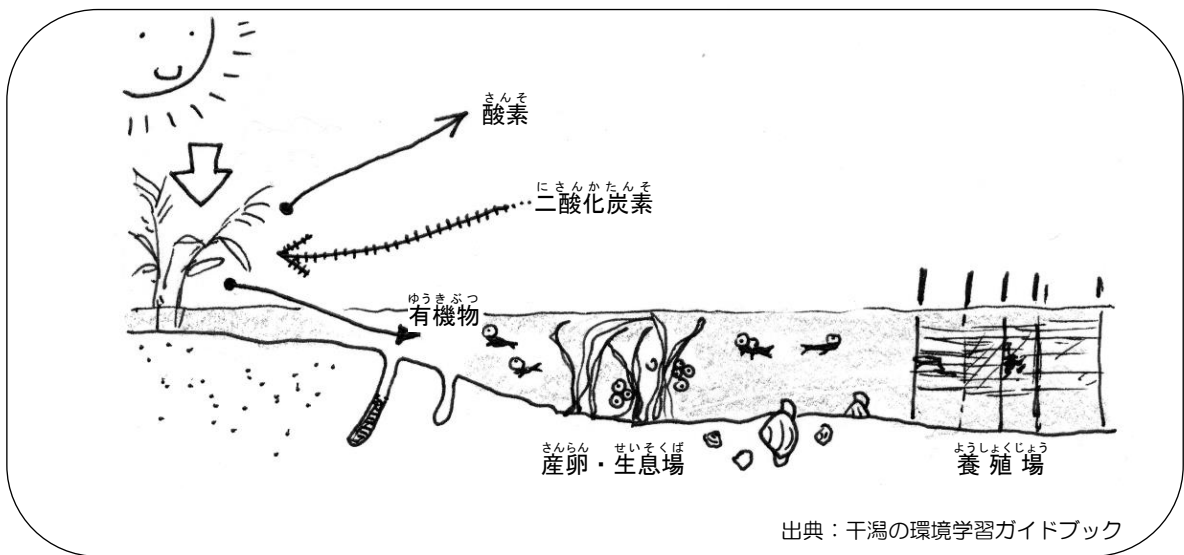
② しぜん じょうかじょう すいしつじょうかきのう 自然の浄化場（水質浄化機能）

ひがた あさり い つち なか びせいぶつ
干潟にすむアサリなどの生きものや土の中の微生物が
よ みず
バランス良くいることで、水をきれいにします。



③ ^い生きものの^{ほいくえん}保育園（^{せいぶつせいさんきのう}生物生産機能）

^{ひがた}干潟に、^いどんな生きものの^{たまご}卵や^{こども}子供が^{しら}すんでいるかを調べてみましょう！



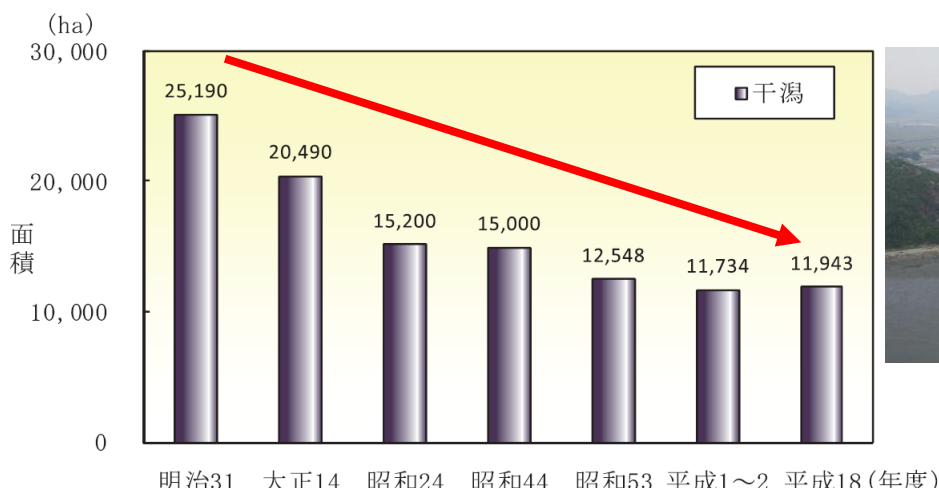
④ ^{あそ}みんなの^ば遊び場（^{しんすいきのう}親水機能）

^{ひがた}干潟での^{かんさつ}観察は^{たの}楽しいかな？



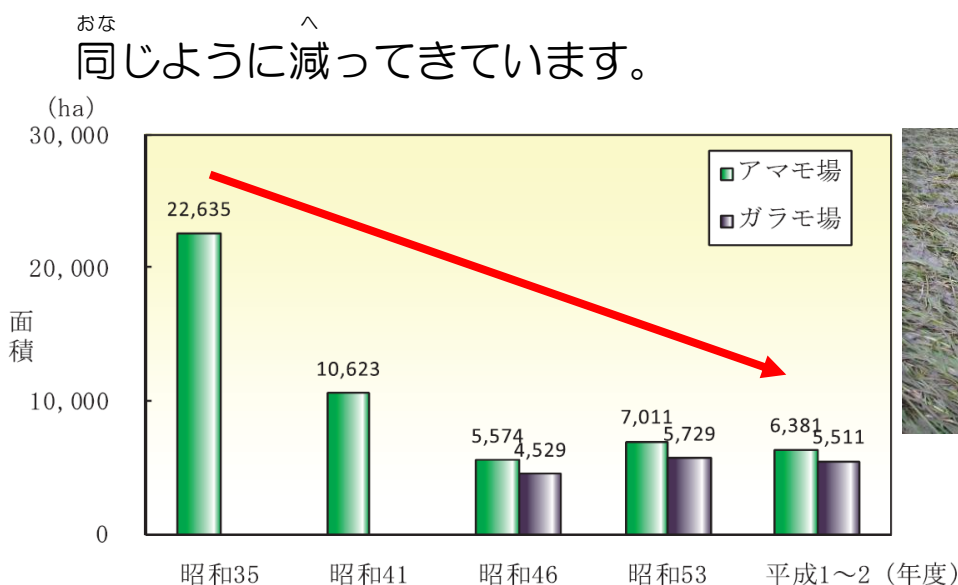
2.3 瀬戸内海の干潟

私たちの生活や、生きものにとって貴重な干潟は、全国的に昔に比べ、少なくなっています。瀬戸内海の干潟は明治31年から平成18年までに約半分に減っています。



＜瀬戸内海における干潟の推移＞ 出典：瀬戸内海的环境学習マニュアル

また、干潟から浅い海に生える海草（アマモ）も、干潟と同じように減ってきています。

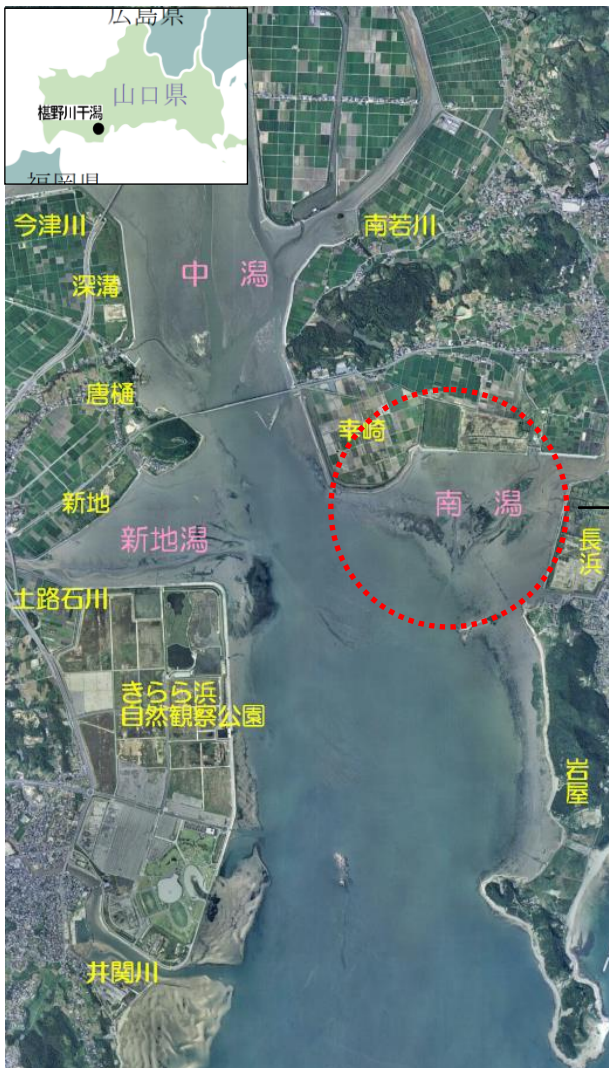


＜瀬戸内海におけるアマモ場の推移＞ 出典：瀬戸内海的环境学習マニュアル

3. ^{さとうみ}里海づくり

ふしのがわ ちゅうごくさんち すいげん ちゅうりゅう のうち しがいち
 榎野川は、中国山地を水源とし、中流の農地や市街地を
 なが やまぐちわん なが こ く ひとびと もり かわ うみ
 流れて、山口湾に流れ込み、そこに暮らす人々が森・川・海
 のすべてを身近に感じられる場所です。

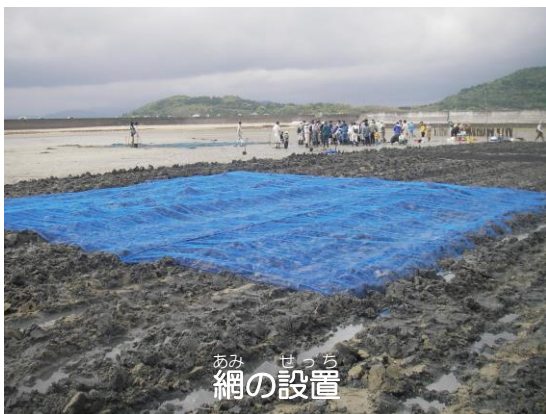
かこういき なかがた しんちがた みなみがた おお ひがた
 その河口域には、中潟、新地潟、南潟などの大きな干潟が
 みなみがた ちいき ひと きょうりよく さとうみ
 あります。南潟では、地域の人たちが協力して里海づくり
 とく くに
 に取り組んでいます。



みなみ がた
 南 潟

3.1 ひがた かつどう 干潟の活動

あさり ひがた い ふ ひがた たがや
アサリなどの干潟の生きものを増やすため、干潟を耕し
たり、アサリを食^たべてしまうナルトビエイやクロダイなどか
ら保護するための竹^{ほご}柵^{たけさく}や網^{あみ}を設置^{せっち}しています。その結果、ほ
とんどいなくなっていたアサリが^ふ増えてきています。



3.2 カブトガニの^{ほご}保護

カブトガニは、^{おくねんまえ}2億年前から^{かたち}形を^か変えず^い生きてきたので、
“^い生きた^{かせき}化石”といわれます。^{にほん}日本では、^{せとないかい}瀬戸内海と^{きゅうしゅう}九州
^{ほくぶ}北部に^{やまぐちわん}すんで^{せいそくち}おり、^{ひと}山口湾も^{せいそくち}生息地の一つです。しかし、カ
ブトガニの^{せいそくち}生息地が^へ減っており、^{ほご}保護活動^{かつどう}を^{すす}進めています。



3.3 アマモ^ば場づくり

アマモは、干潟^{ひがた}から浅い海^{あさ うみ}に生える海草^はで、水^{かいそう}をきれい^{みず}にしたり稚魚^{ちぎょ}のすみか^{さんらん}や産卵^{ばしよ}の場所^{うみ}となる海のゆりかご^{うみ}です。

山口湾^{やまぐちわん}では、広くアマモ場^{ひろ}がありました^ばが、近年^{きんねん}減^へってきたため、アマモ場づくり^{おこな}が行われています。



4. ^{ひがた} ^い 干潟の生きもの ^{かんさつ} 観察

4.1 ^い ^{さが} 生きものを探してみよう！

- ^{ひがた} 干潟には、どのような ^い 生きものが、どのような ^{ばしょ} 場所にいるのだろうか？
- ^{さでい} ^{どろ} 砂泥や泥などの ^{ひがた} ^{ひょうめん} ^{じょうたい} 干潟の表面の状態と、^い ^{かんけい} 生きものとの関係はどうなっているのだろうか？

^{ひがた} ^{かんさつ} ^{ちゅうい} 干潟の観察で注意すること！！

- ✚ ^{しどうしゃ} ^{せんせい} ^い ^{まも} 指導者（先生）の言うことを守ろう
- ✚ ^{ほか} ^{かた} ^{めいわく} 他の方に迷惑をかけないようにしよう
- ✚ ^て ^き ^き フジツボやかキなどは、手を切ることがあるから気をつけよう
- ✚ ^{うみ} ^{ふか} ^い 海にはいるときは、深いところには行かないようにしよう
- ✚ ^{どく} ^い クラゲやアカエイなど、毒をもっているかもしれない生きものには、さわらないようにしよう
- ✚ ^{はし} ふざけて走りまわらないようにしよう
- ✚ ^{いし} ^{かえ} ^{すな} 石をひっくり返したり、砂をほったりしたあとは、もとにもどしておこう
- ✚ ^{ぼうし} ^{かなら} 帽子は必ずかぶろう
- ✚ ^{すいぶん} のどがかわいたら水分をとろう
- ✚ ^{かんさつ} ^い ^{ばしょ} ^{かえ} 観察のためにつかまえた生きものは、もといた場所に帰してあげよう

4.2 ^い生きものはどんな場所^{ばしょ}にいるの？

^{ひがた}干潟^みの表面をよよく見ると、^{すな}砂、^{どろ}泥、^{すな}砂と^{どろ}泥が混じった場所

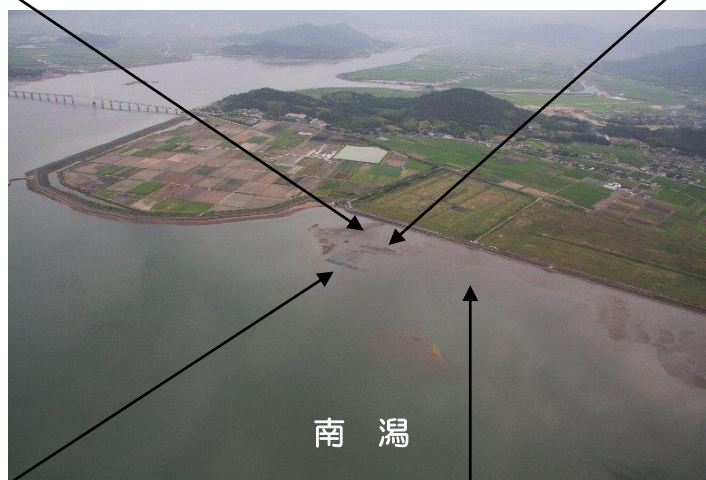
(^{さでい}砂泥)などのいろいろな場所^{ばしょ}があります。その底質^{ていしつ}によっ

て、^いすんでいる生きもの^{ちが}が違います。

砂ゾーン：二枚貝、巻貝、カニ



砂泥ゾーン：二枚貝、巻貝、カニ、エビ、シャコ



竹ゾーン：フジツボ、海藻、カキ



泥ゾーン：二枚貝、巻貝、カブトガニ、カニ、アナジャコ



^{みなみがた}南潟^{ていしつ}の底質

4.3 どうやって^{かんさつ}観察するの？

1) ^い生きものをさがそう

- ^{すな}砂の上に^いすんでいる生きもの、^{すな なか}砂の中に^いすんでいる生きものがいます
- ^{すな なか}砂の中に^いすんでいる生きものは、^{すな}砂をふるいにかけてさがしてみよう



2) ^い生きものを^{かんさつ}観察しよう

- ^いつかまえた生きものを、^{しろ}白いバットにうつして^{かんさつ}観察しよう
- ^い生きもの^{なまえ}の名前を、^{きろく}ビンゴカードに記録しよう
- ^{ちい}小さな^い生きものは、^{むし}虫めがねで^{かんさつ}観察しよう



- ★^{かんさつ}観察の^{ふくそう}服装：^{ぼうし}帽子、^{なが}長ぐつ、タオル、すいとう
- ★^{かんさつ}観察の^{どうぐ}道具：^{ふるい}ふるい、スコップ、ビンゴカード、^{ひっきょうぐ}筆記用具

4.4 みなみがた 南 潟 に す む いろ いろ な 生 き も の い

二枚貝のなかま（軟体動物）							
特 徴	希少性			生息場所			
	多 い	普 通	少 い	砂	砂 泥	泥	石
 <ul style="list-style-type: none"> ■種 名：アサリ ■大きさ：殻長 3 cm ■特 徴：殻の色、模様はいろいろ。潮干狩りの代表種。 		●			●		
 <ul style="list-style-type: none"> ■種 名：ユウシオガイ ■大きさ：殻長 2 cm ■特 徴：殻の色は白、黄色、オレンジ色、ピンク色など多彩。 			●		●		
 <ul style="list-style-type: none"> ■種 名：ソトオリガイ ■大きさ：殻長 5 cm ■特 徴：殻は白く半透明。殻の後部が開いている。 		●			●		
 <ul style="list-style-type: none"> ■種 名：ホトトギスガイ ■大きさ：殻高 2 cm ■特 徴：殻の模様が野鳥のホトトギスに似ている。 		●			●	●	
 <ul style="list-style-type: none"> ■種 名：オキシジミ ■大きさ：殻長 5 cm ■特 徴：殻は分厚い。色は明るい茶色。泥っぽい場所では黒くなる。 			●		●		
 <ul style="list-style-type: none"> ■種 名：マテガイ ■大きさ：殻長 10 cm ■特 徴：殻は、ろうそくのよう に細長い。砂の中に縦に潜っている。 		●			●	●	

巻貝のなかま（軟体動物）

特 徴	希少性			生息場所			
	多 い	普 通	少 い	砂	砂 泥	泥	石
 <ul style="list-style-type: none"> ■種 名：ホソウミニナ ■大きさ：殻高：3cm ■特 徴：殻は細長く、頭がとがっている。干潟で良く見られる。 	●				●		●
 <ul style="list-style-type: none"> ■種 名：イボウミニナ ■大きさ：殻高：4cm ■特 徴：ホソウミニナよりやや大きくなり、肩部が強く張り出す。 			●		●		
 <ul style="list-style-type: none"> ■種 名：アラムシロ ■大きさ：殻高 1.5 cm ■特 徴：荒くて大きな模様が広がり固い。海の掃除屋さん。 		●			●		
 <ul style="list-style-type: none"> ■種 名：イボキサゴ ■大きさ：殻高 1.5 cm ■特 徴：円盤の形とした巻貝。黄色の殻に青い斑紋が広がる。 			●		●		
 <ul style="list-style-type: none"> ■種 名：ツメタガイ ■大きさ：殻高 5 cm ■特 徴：殻は茶色でふっくらと丸い。肉食性でアサリを食べる。 			●		●		
 <ul style="list-style-type: none"> ■種 名：アカニシ ■大きさ：殻高 5～10 cm ■特 徴：大人のこぶしくらいになる貝で、殻の内側は赤い。肉食性。 			●		●		●

エビ・カニのなかま（節足動物）

特 徴	希少性			生息場所			
	多 い	普 通	少 い	砂	砂 泥	泥	石
 <p>■種 名：ヤマトオサガニ ■大きさ：甲長 3 cm ■特 徴：甲羅は横長い。 眼が長く潜望鏡の ように立ち上げる。</p>		●				●	
 <p>■種 名：マメコブシガニ ■大きさ：甲長 2 cm ■特 徴：甲羅は長く、中央が 盛り上がる。前に歩 く。</p>		●		●	●		
 <p>■種 名：ケフサイソガニ ■大きさ：甲長 2.5 cm ■特 徴：甲羅は丸みのある四 角形。ハサミは大き く付根に毛がある。</p>		●					●
 <p>■種 名：ハクセンシオマネキ ■大きさ：甲長 2 cm ■特 徴：甲羅は長方形。雄の 片方のハサミが大 きい。</p>			●	●			
 <p>■種 名：アナジャコ ■大きさ：体長 10 cm ■特 徴：干潟に 2m以上の深 い巣穴をほって生 活する。</p>		●				●	
 <p>■種 名：テップウエビ ■大きさ：体長 5 cm ■特 徴：片方のハサミが大き くハ°チハ°チと音を 出す。</p>			●		●	●	

その他の生きもの

特 徴	希少性			生息場所			
	多 い	普 通	少 い	砂	砂 泥	泥	石
 <p> ■種 名：カブトガニ ■大きさ：全体幅 50 cm(成体) ■特 徴：丸く固い甲羅。長い尾を持つ。幼体は、干潟に住む。 </p>			●		●	●	
 <p> ■種 名：ヒガキヤドカ ■大きさ：甲長 1 cm ■特 徴：ウミニナなどの貝に入って生活。干潟の代表種。 </p>	●			●	●		●
 <p> ■種 名：タテジマフジツボ ■大きさ：殻径 1 cm ■特 徴：護岸、石、竹などに付着。移動しない。エビやカニの仲間。 </p>	●						●
 <p> ■種 名：ゴカイのなかま ■大きさ：種類による様々。 ■特 徴：砂や泥の中に潜って生活。ミミズの親戚。 </p>		●		●	●	●	
 <p> ■種 名：シロヤシロガイ ■大きさ：殻長 2 cm ■特 徴：干潟の中で殻を上にして生息。貝の仲間ではない。 </p>			●		●		
 <p> ■種 名：アマモ ■大きさ：葉長 50~100 cm ■特 徴：葉は細長く、緑色。種子植物で、砂泥域に根を付けて生活。 </p>		●		●	●	●	



干潟の役割と生きものたち

～榎野川河口域干潟（南潟）で干潟の役割と生きものを知ろう！～

平成24年3月発行

事務局：榎野川河口域・干潟自然再生協議会

ホームページ (<http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/fushino/index.html>)

TEL:086-933-3060、FAX:083-933-3069

制作・発行：環境省 中国四国地方環境事務所

ホームページ (<http://chushikoku.env.go.jp/>)

TEL:086-223-1577、FAX:086-224-2081

リサイクル適正の表示：紙へのリサイクル可

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準に従い、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料【Aランク】のみを用いて作成しています。

※R100 マークを添付

古紙配合率 100%再生紙を使用